



新座中だより

〒352-0011 埼玉県新座市野火止2-4-1

TEL 048-478-3668

HP <https://j-niiza-c-niiza.edumap.jp>

新座市立新座中学校

学校教育目標

強く 明るく 考える

「6月号」

令和8年6月2日発行

アンサング・ヒーローはだれだ？

校長 伊藤大輔

中学校は、市民そして公民としての素養を身に付ける最終段階です。社会性といってもいいでしょう。卒業と同時に、社会人としての責任が生まれます。そして、勉強の他にも人間として大切なことが、どれほどたくさんあるかを学ぶ場が中学校です。

体育祭をはじめとする学校行事もそうした機会です。机に座っているだけでは味わえない無理難題に挑む機会です。例えば「〇団全員でひとつの応援パフォーマンスを完成する」という課題解決に向けて、仲間とともに最適解を探らねばなりません。その過程の中であって、仲間を助け、仲間に助けられ、仲間の心に寄り添い、仲間との絆の大切さを学ぶことになるのです。

全校朝会で群れと集団について私が触れた理由もここに 있습니다。両者の違いを辞書的に解釈すると次のようになります。

「群れ」: 目的を持たずに、ただ集まっていること

「集団」: ある目的を達成すべく、集まっていること

たとえ最初は群れの状態にあっても、教育を重ねて「集団」としての成長・深化を促すことが中学校が果たす大切な役割です。そして集団性の価値を測る試金石が「アンサング・ヒーロー」だと私は考えます。「アンサング・ヒーロー」は、たいへんな功績をあげただけけれど、人々はそのことを知らない英雄のことです。実際に、歴史上そういう人はたくさんいました。その人たちの目に見えない気づかいのおかげで、多くの人が、多くの街が、多くの文明が救われました。でも、その人を「英雄」として称える歌は誰も歌わない。なぜなら誰も知らないからです。

ある人が村のはずれの川沿いの道を歩いていたら、堤防に小さな穴が開いてました。そこから水が漏(も)れています。そこで、小石を拾って、その穴に押し込むと、水が止まりました。しばらくして大雨が降った時に、その堤防は崩れず、村は水没を免(まぬが)れました。でも、その人は自分が押し込

だ石が堤防の決壊を防いだことを知りません。村人たちも、その人が村を救ったことを知りません。

こういうことは、日常生活のあらゆる場面に存在します。街がゴミであふれないのは、人知れず清掃したり、ゴミを回収する人がいるからです。雪が降った朝、安全に通行できるのは、早起きして雪かきをする人がいるからです。

学校の日常にも存在します。換気のために、毎朝廊下の窓を開けてくれる人がいます。校内の草木を伸びるまえに刈ってくれる人がいます。落ちた画鋏を拾って、掲示物を整えてくれる人がいます。放課後の教室の机を黙々と整頓する人がいます。

こうした行為は、「感染症が広がる、ケガをする、施設面のトラブルが起こる、秩序が乱れる」といったリスクを減らします。これを請け負うのが「アンサング・ヒーロー」です。誰かがしなければいけないことがあったら、それは自分の仕事だと考える人、そして行動に移す人です。この人のおかげで誰も不快な思いをせずに済みます。しかし誰もそのことに気付きません。当の本人も自分がやったとアピールすることなどしません。純粋に人の役に立とうとしたただけだからです。

残念ながら世の中には何かが起きた後に、手際よくそれを処理してみせて、拍手喝采(はくしゅかつさい)を浴びるほうが得だと考える人がいるようです。仕事は自分の評価を高めるためだけにするものでしょうか。私はちがうと思います。仕事とは、みんなのため、社会のために貢献するなかで、自分の価値を高めていく営みでもあるはずです。

体育祭の取組をきっかけに、「アンサング・ヒーロー」を意識してみませんか。その人はあなたの隣にいてもかもしれません。あなたの家族の中にいてもかもしれません。もしかしたらあなた自身かもしれません。新座中の皆さんには、その存在に気づき、大切にし、認める感性を高めてほしいです。